

■ 噴火警戒レベル ■

昨年、御嶽山の噴火で多くの登山者の方が被災されたニュースやあちこちで活発になっている火山活動のニュースなどで「噴火警戒レベル」という言葉を聞く機会が増えたように思います。皆さんは「噴火警戒レベル」がどのようなものなのかご存知ですか？日本は、世界でも代表的な火山列島で、狭い国土の中に110もの活火山があり、監視が必要な活火山は47あります。そのうち31の火山で噴火警戒レベルが運用されています。噴火警戒レベルは、噴火時の「警戒が必要な範囲」と「必要な防災対策」をレベル1～5に区分したもので、各レベルには、レベル1「活火山であることに留意」レベル2「火口周辺規制」レベル3「入山規制」レベル4「避難準備」レベル5「避難」と共通のキーワードが決まっています。同じレベルでもビジターセンターに近い磐梯山はレベル2で想定火口から1km以内の立入規制ですが、少し離れた吾妻山は大穴火口及び火口から半径500m以内の立入規制となり、火山によって規制範囲などは異なります。



登山に行く時、その山が活火山かどうか、噴火警戒レベルはどうかなど、火山のことをよく調べ、必要な装備や火山防災マップなどを確認し、噴火が起こった時に迅速に避難できるようにしましょう。また、自分の住んでいる地域に火山がある場合も想定される被害の範囲、避難経路や避難場所の確認、避難準備品などの対策をしておくことが大切です。

人も動物も自然の力にはかえりませんが、動物には自然災害を予知する力があるのか、噴火前日に山から移動したという話やペットが地震の前に騒ぎ出したという話を聞いたことがあります。人が予知することは難しいですが、自然の中で暮らしているという意識と正しい知識を持ち、被害が最小限になるように対策をしておきましょう。

※各火山の噴火警戒レベルは気象庁のホームページをご覧ください。

■ こんなの見なかった？ ■

裏磐梯でよく見かける不思議なもの…さて、なんでしょう？

これからの裏磐梯の楽しみは、紅葉ではありません。木をよく見てみると、長さ5cmほどの丸い何かがぶら下がっています。同じ場所に2つ、3つ、はたまたそれ以上ついていることもあり、見ていて楽しくなってきます。

さて、これは一体何でしょう？

- ①ビジターセンターで作った飾り
- ②ミツバアケビの実
- ③木登りの道具
- ④探勝路の目印
- ⑤キツツキのフン



正解は、②です。ミツバアケビはつる性の植物で、秋になると、写真のような実をつけます。実がなる頃は緑ですが、熟すと紫に変わり、ぱかっと開いて中の果肉が見られます。ニホンザルやツキノワグマなどの哺乳類や野鳥たちが果肉を食べ、果肉に含まれる種子をフンとして排出することで繁殖しています。

動物にとっては大事なエサとなり、ミツバアケビにとっては子孫を残せるので、正に一石二鳥ですね！ちなみに、「アケビ」の名の由来はいくつかあり、そのうちの1つに実が開くことから「開け実」と言われ、訛って「アケビ」になったという説があります。ぜひその開いた実の様子も観察したり触ったりしてみてください。

